

資料編

第五次大野市総合計画の策定経過

意識調査アンケートの結果概要

第五次大野市総合計画策定委員会・幹事会名簿

用語解説

第五次大野市総合計画の策定経過

1 意識調査アンケートの実施

大野市の将来像や施策展望などについて検討する基礎資料とするため、市民の意識やまちづくりに対する意向などを把握する意識調査アンケートを実施しました。また、居住者とは異なる視点からの意見を参考とするため、大野市に縁のある大野市外の方にもアンケート調査を実施しました。

〔実施期間〕平成21年4月～7月

〔回答者数〕18歳以上の市民388人、高校3年生311人、中学3年生356人、大野市に縁のある方92人

2 第五次大野市総合計画策定委員会における協議

大野市の目指す方向を共有し、共に考えながら新たな総合計画を策定するため、各界、各層の代表が参画する委員会を設置しました。委員会では、策定方針を定めるとともに、幹事会が作成した総合計画素案について協議しました。

〔委員構成〕市民、学識経験者25人(内公募委員4人)

〔開催回数〕4回

〔協議期間〕平成21年10月～平成22年10月

3 第五次大野市総合計画策定幹事会における討議

市民と行政が協働して計画づくりをするため、第五次大野市総合計画策定委員会の下に幹事会を設置しました。幹事会には市の実務担当職員も参加し、幹事会の中でさらに五つの部会(人が元気①、人が元気②、産業が元気、自然が元気、行財政改革)に分かれて計画づくりを行いました。

〔委員構成〕市民14人(内公募委員4人)、市実務担当職員31人

〔開催回数〕5回

〔討議期間〕平成22年5月～平成22年8月

4 パブリックコメントの手続きを実施

市民の意見を総合計画に反映させるため、素案を公開し、意見を募集しました。提出された意見の概要や意見に対する市の考え方、素案を修正した場合の修正内容を市のホームページで公表しました。

〔実施期間〕基本構想 平成22年10月1日(金)～10月18日(月)

前期基本計画 平成22年11月4日(木)～11月18日(木)

〔意見数〕基本構想 5人から9件

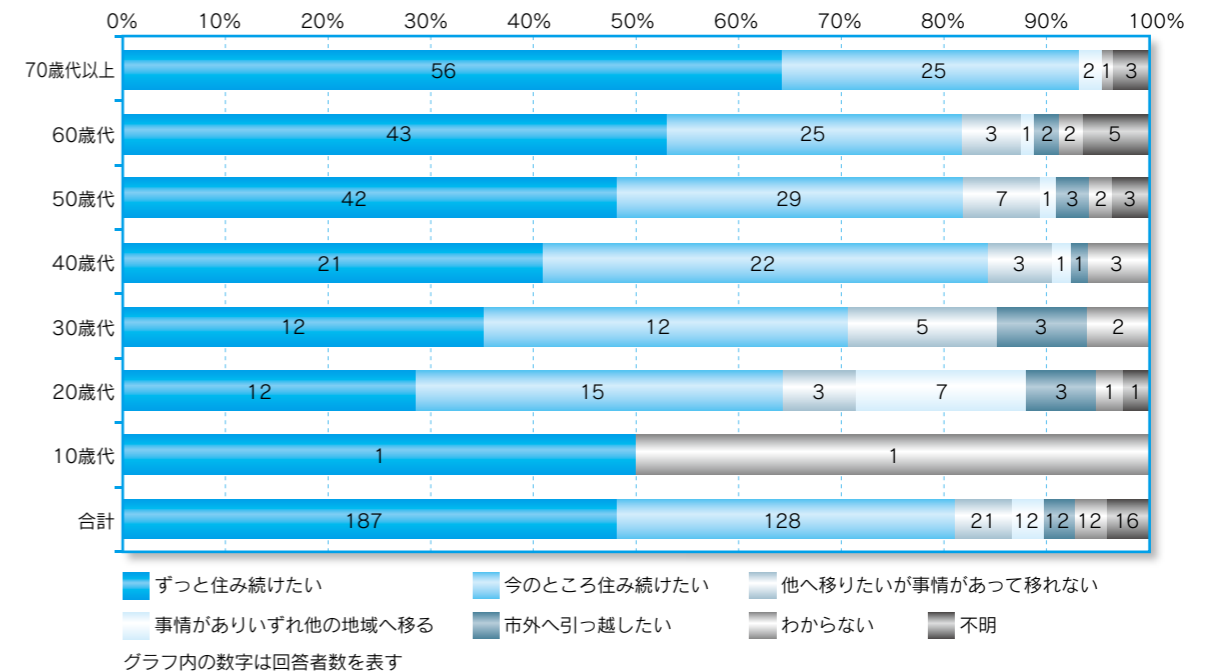
前期基本計画 1団体7人から29件

意識調査アンケートの結果概要

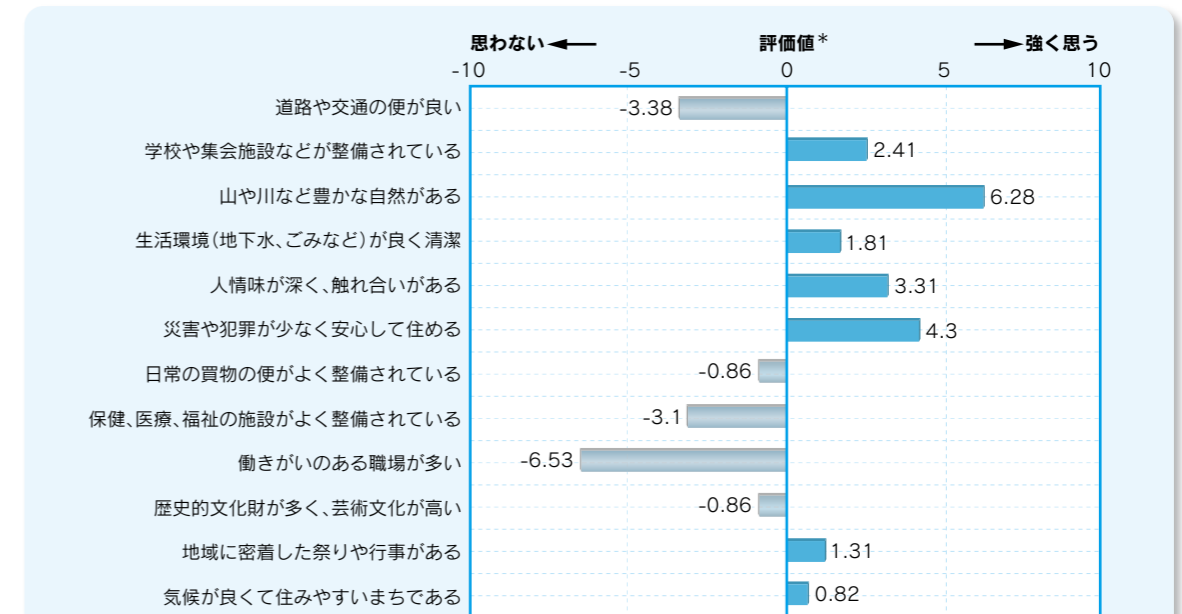
1 市民意識

(1) 居住意向

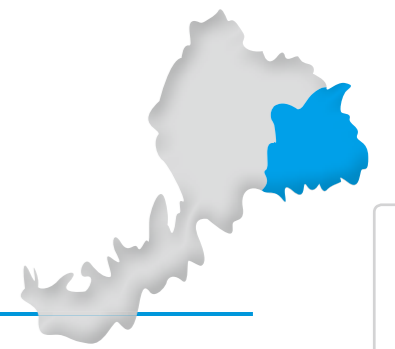
「ずっと住みたい」と「今のところ住みたい」の回答を合わせると、約8割の回答者が住みたいと考えています。



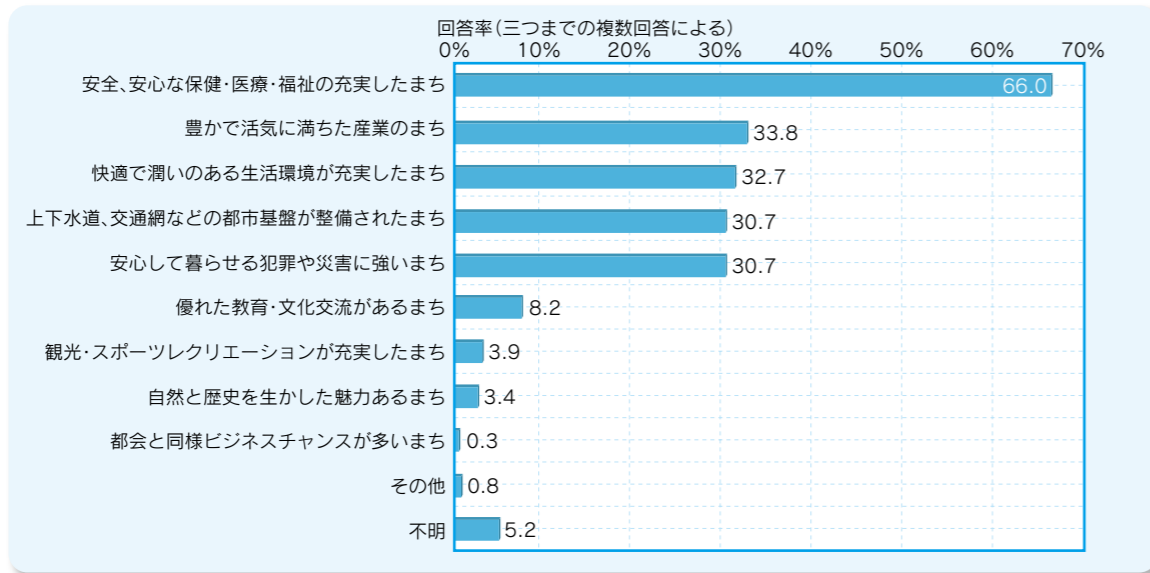
(2) 大野市の現在のイメージ



*回答のうち、「強く思う」を+10、「思う」を+5、「思わない」を-5、「全く思わない」を-10として、有効回答数を加重平均した値。

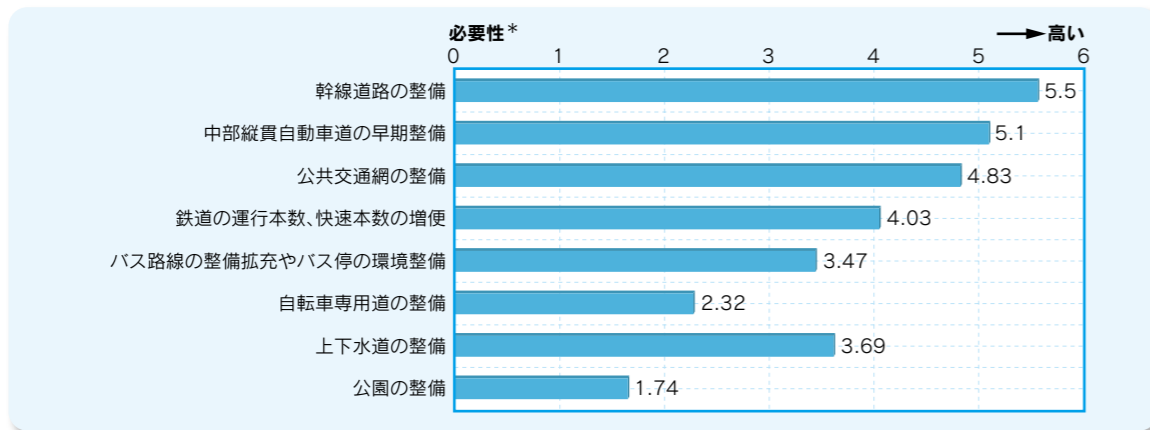


(3) 将来、大野市になってほしいまち

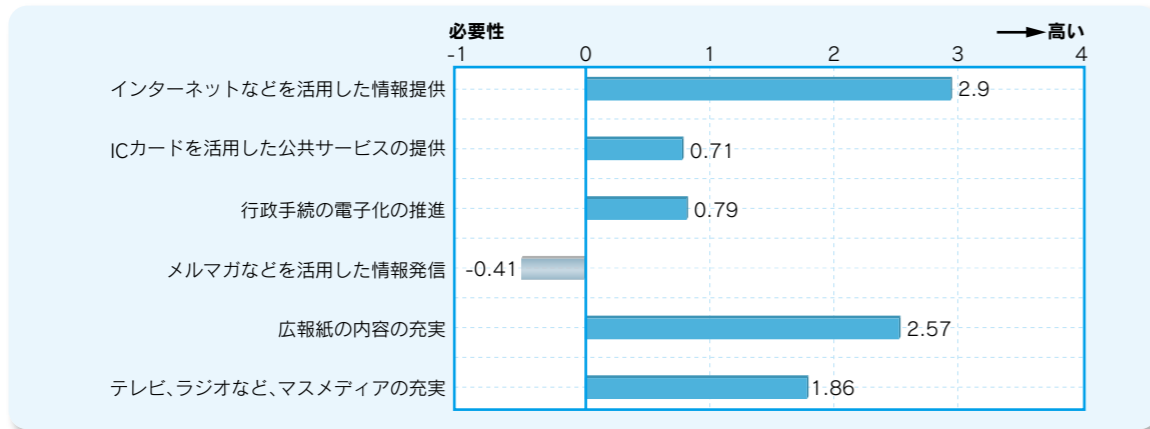


(4) 将来、大野市が活気のあるまちになるために必要なもの

① 都市基盤

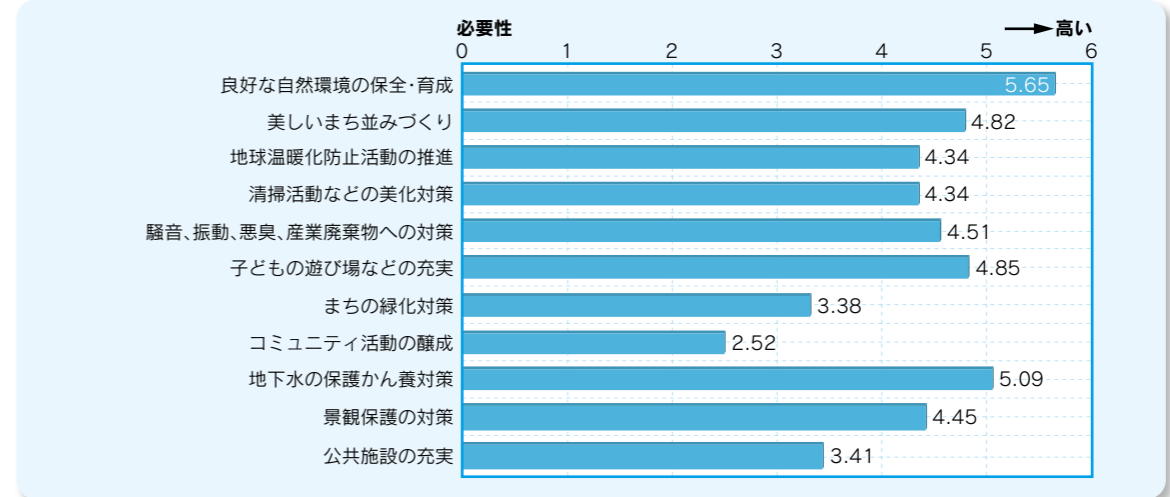


② 情報化社会

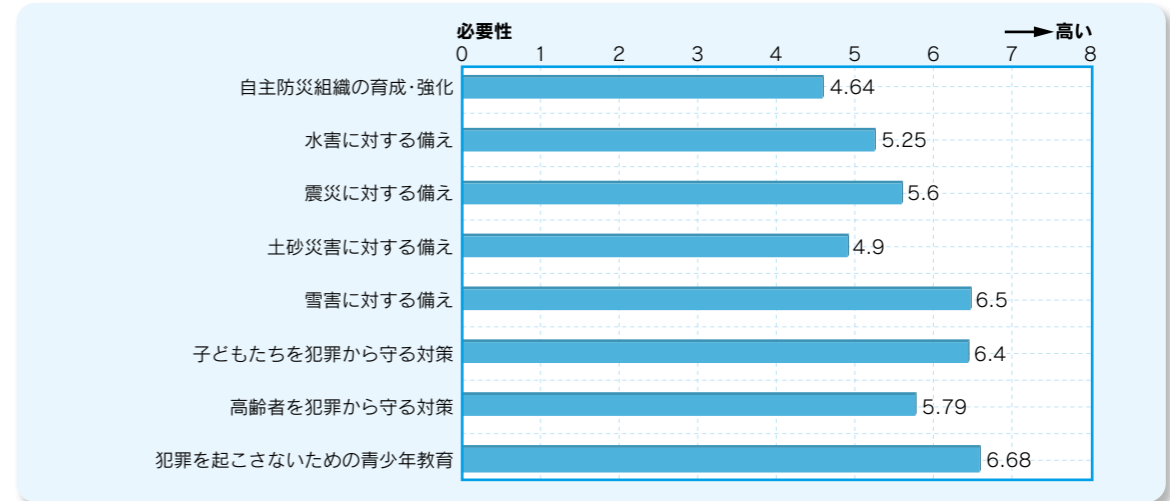


*回答のうち、「強く思う」を+10、「思う」を+5、「思わない」を-5、「全く思わない」を-10として、有効回答数を加重平均した値。(4)①~⑩、(5)まで同じ。

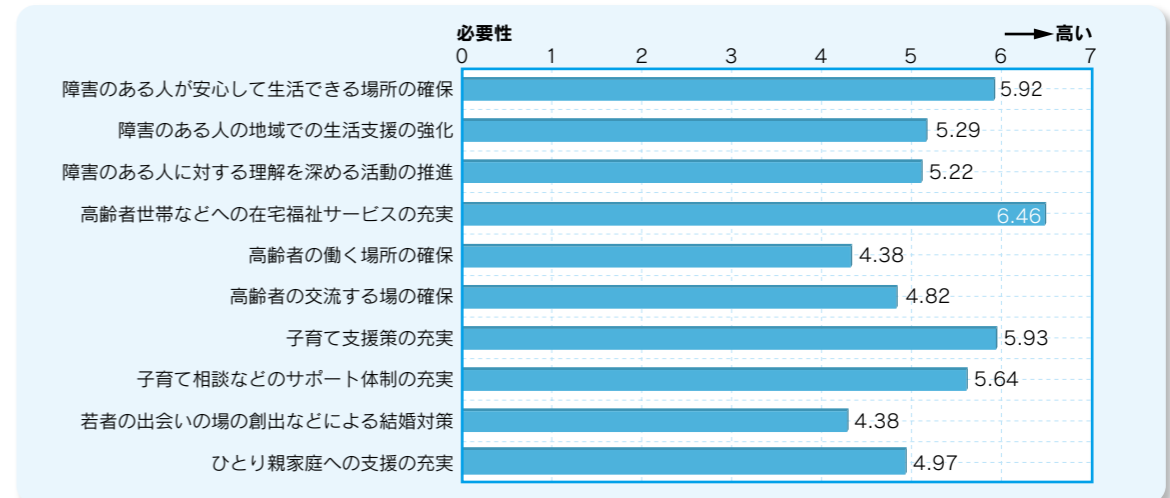
③ 生活環境

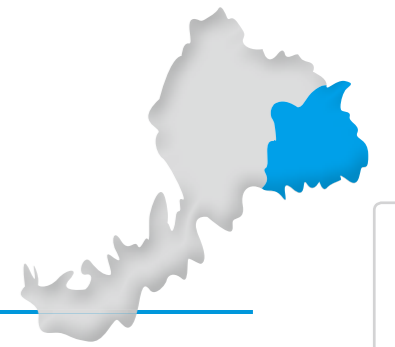


④ 災害・犯罪対策

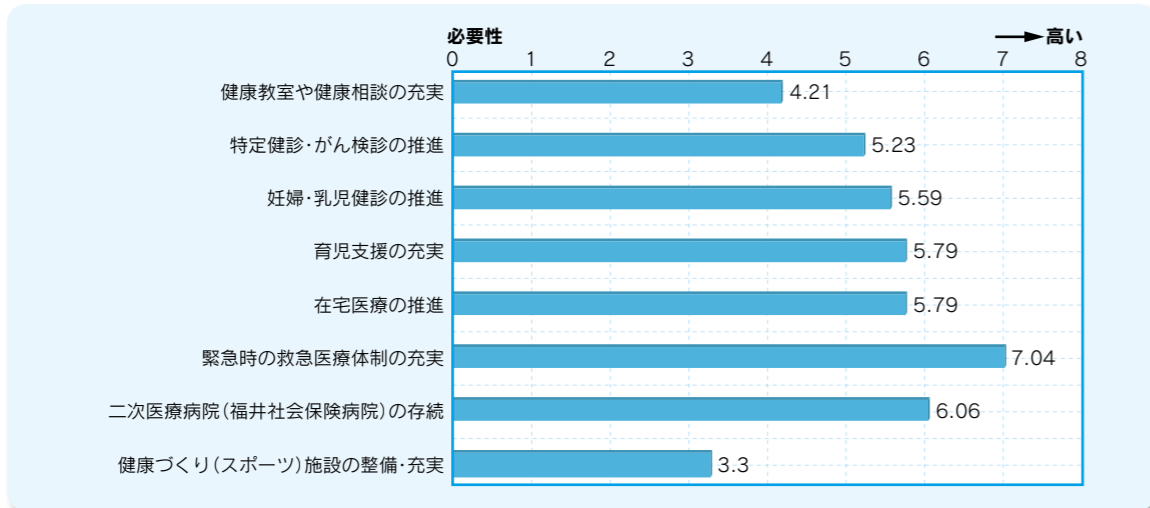


⑤ 社会福祉

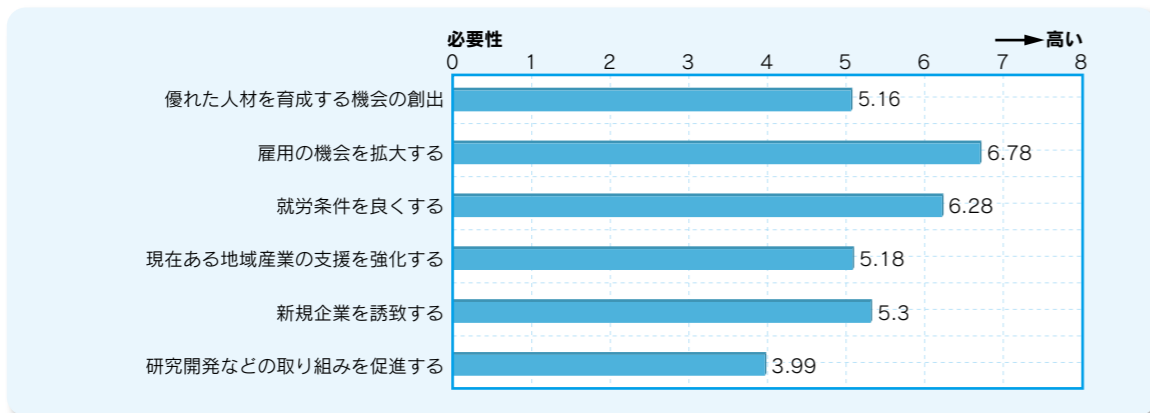




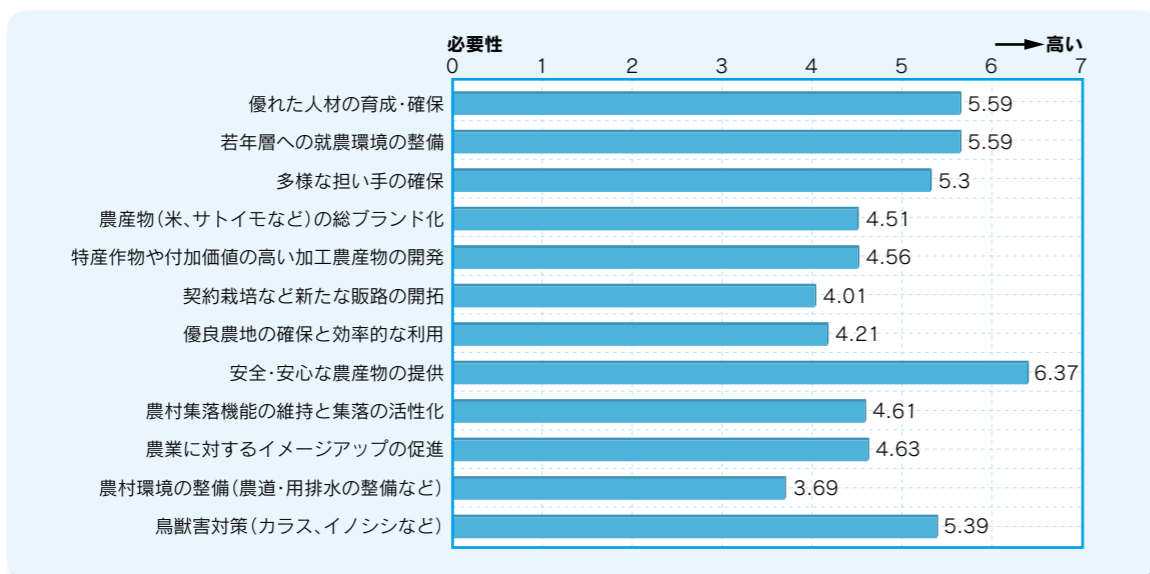
⑥健康づくり・医療体制



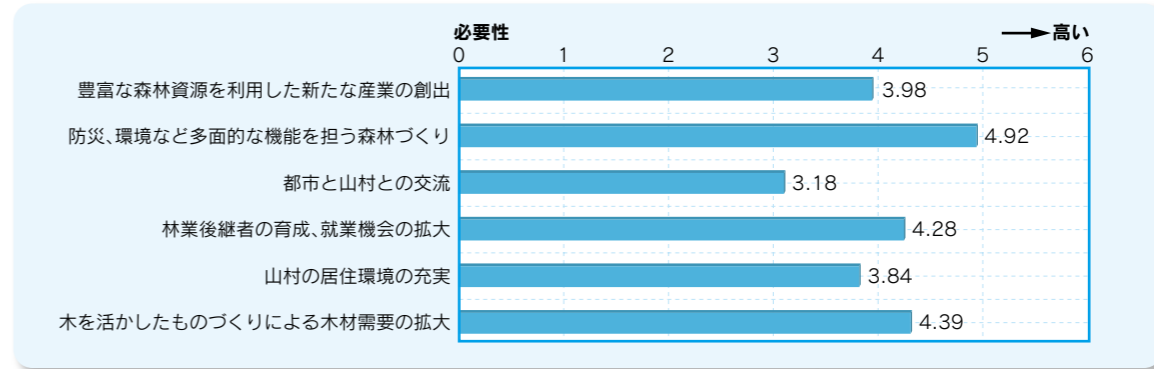
⑦産業振興



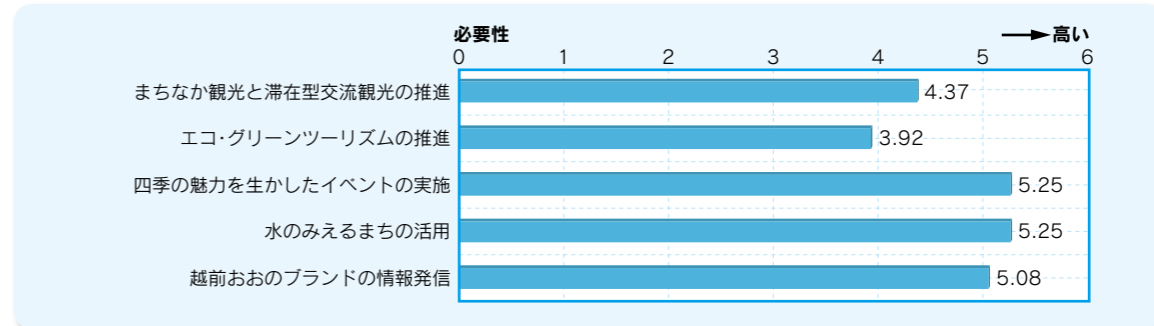
⑧農業振興



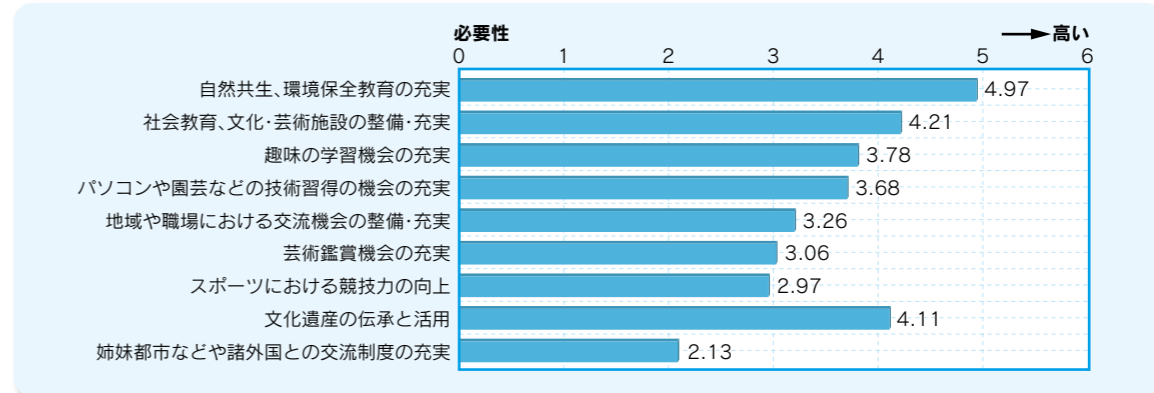
⑨林業振興



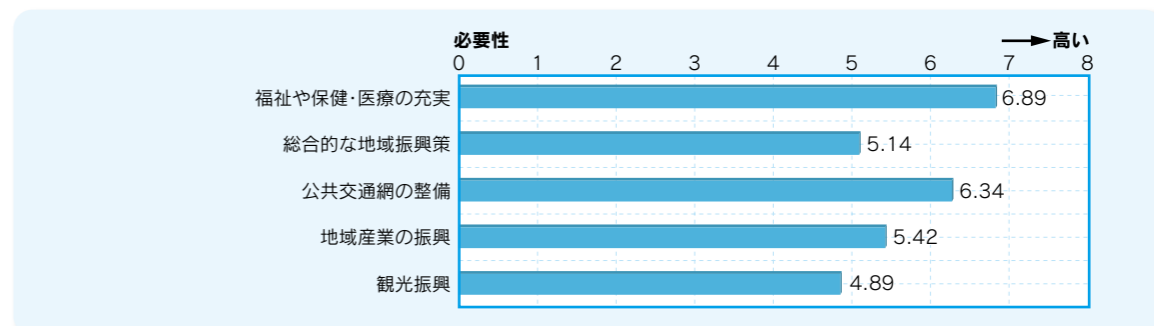
⑩観光振興

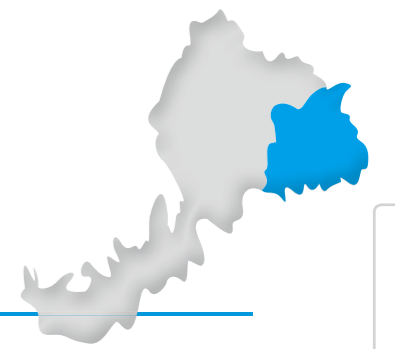


⑪教育・文化



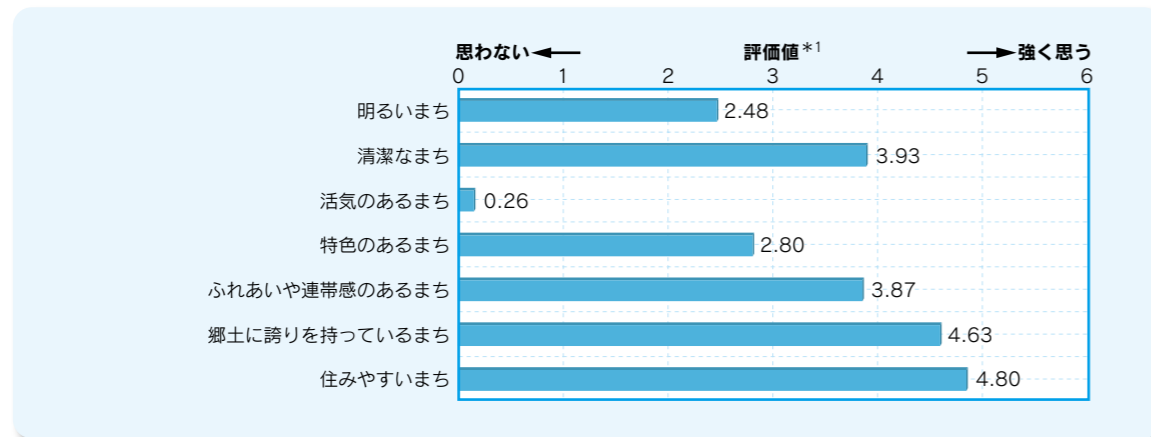
(5) 近隣市町村と連携して進めるべき施策



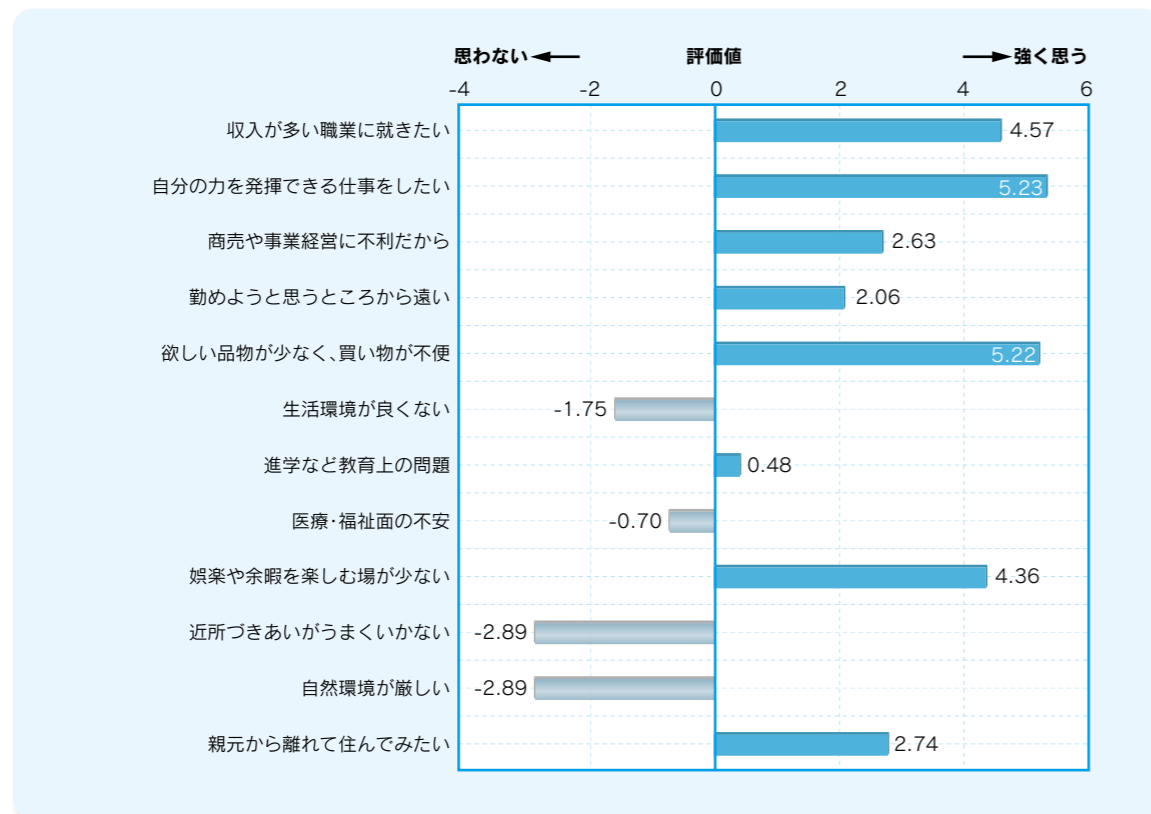


2 中学生・高校生意識

(1) 大野市の現在のイメージ

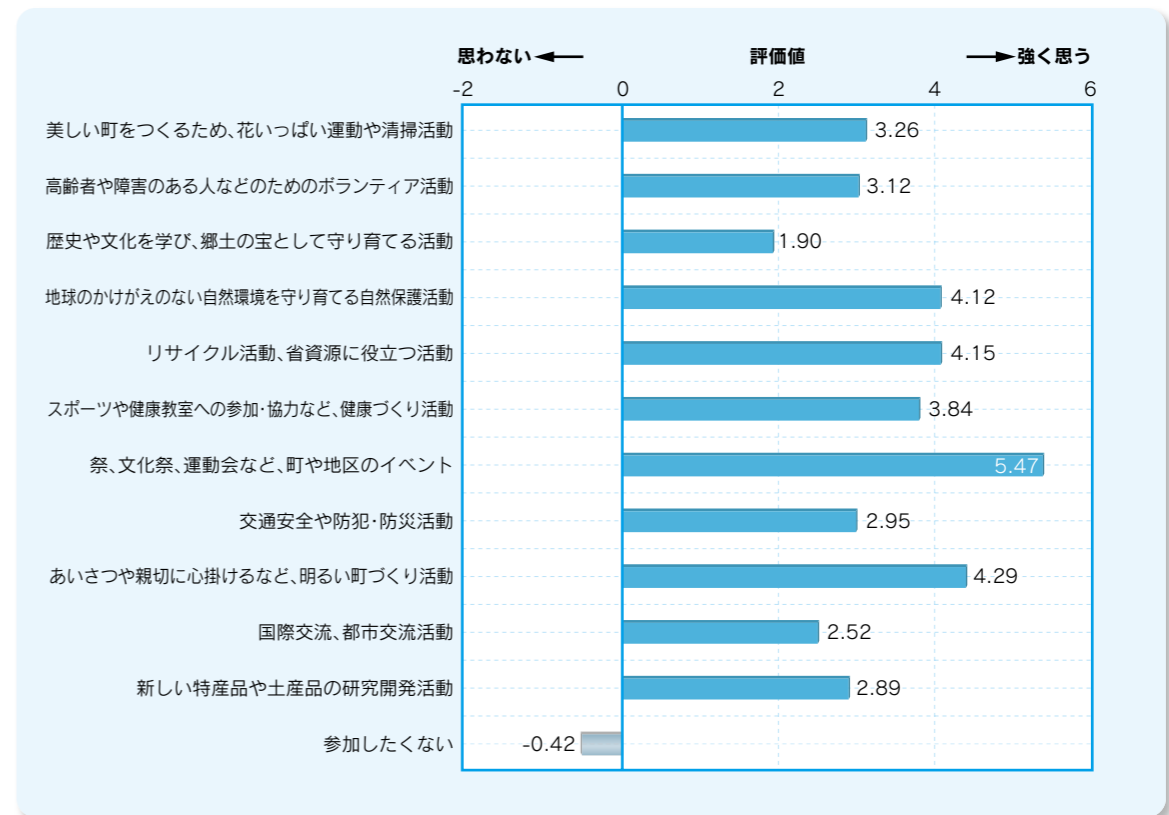


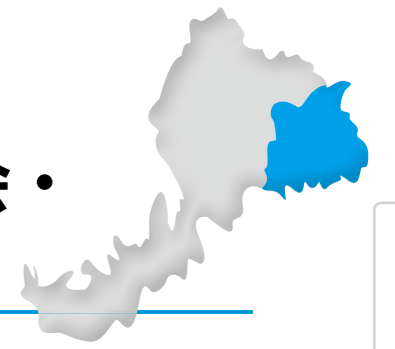
(2) 大野市に住みたくないと思う理由*



*1 回答のうち、「強く思う」を+10、「思う」を+5、「思わない」を-5として、有効回答数を加重平均した値。(1)~(3)まで同じ。
 *2 居住意向を聞いた質問で、「何年か大野市外で住んで、その後大野市で住みたい」、「福井県内のどこかで住みたい」、「福井県外のどこかで住みたい」と回答した人は合わせて約7割ありました。この約7割の人に住みたくないと思う理由を聞きました。

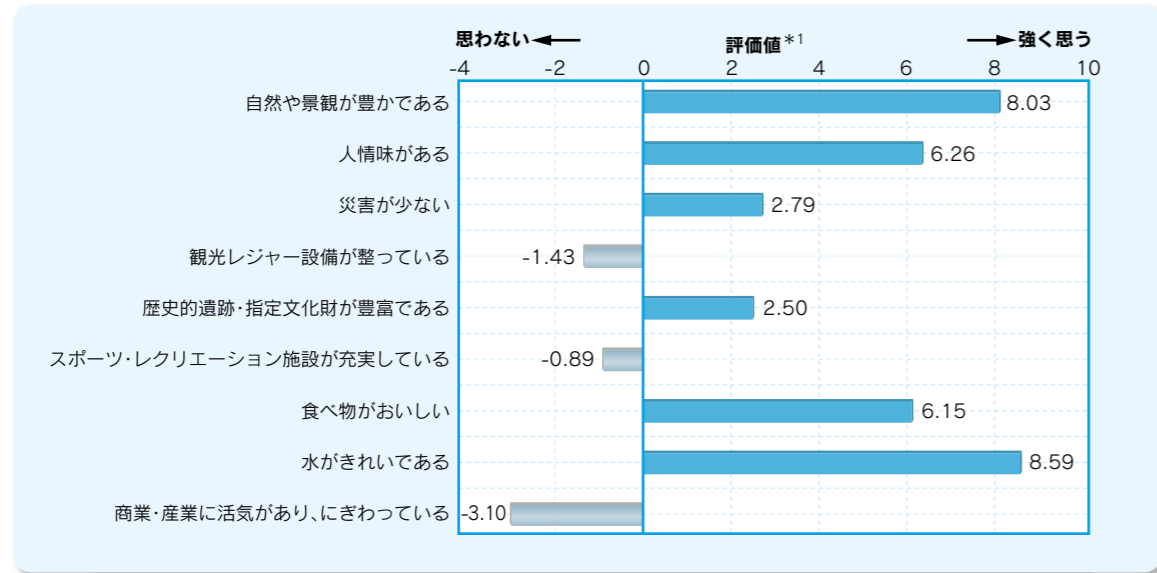
(3) 住民の自主的な活動としてどのような活動に参加したいか



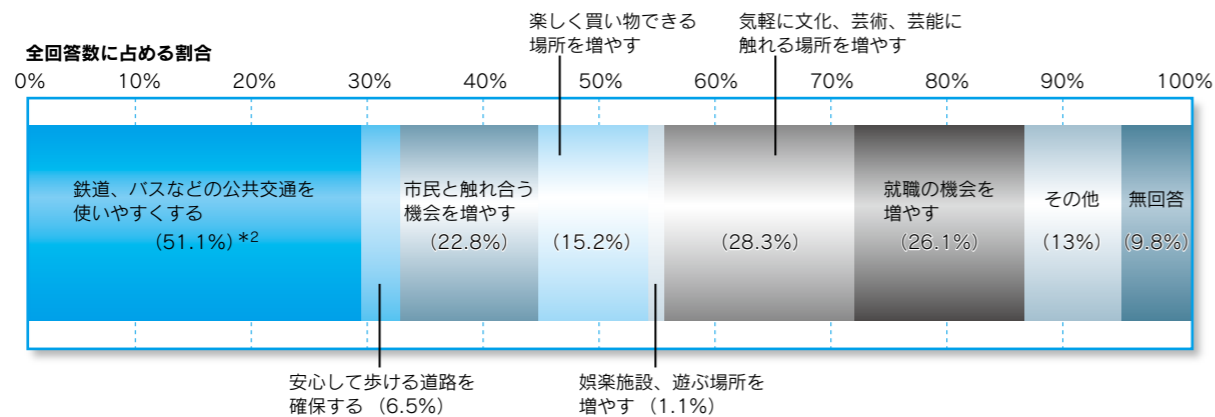


3 大野市に縁のある方意識

(1) 大野市の良いと思うところ



(2) 大野市で改善すべきところ

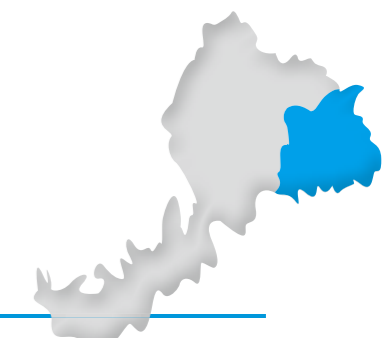


*1 回答のうち、「強く思う」を+10、「思う」を+5、「思わない」を-5、「全く思わない」を-10として、有効回答数を加重平均した値。
*2 大野市で改善すべきところを二つまで選んでもらいました。()内はそれぞれの項目への回答数の回答者数に占める割合です。

第五次大野市総合計画策定委員会

団体名	役職	氏名(敬称略)	備考
福井大学工学部建築建設工学科	教授	野嶋慎二	委員長
大野市老人クラブ連合会	会長	長谷川あい子	副委員長
大野市区長連合会	会長	養老昌男	
大野市区長連合会	副会長	松原喜憲	
和泉地域審議会	委員	新井悦子	
大野商工会議所	会頭	黒原孝雄	
社団法人 大野建設業会	会長	松田七男	
テラル越前農業協同組合	専務理事	羽生悦夫	
九頭竜森林組合	代表理事組合長	馬場 功	
大野市商店街振興組合連合会	理事長	福岡廣志	
社団法人 大野市医師会	副会長	山川 秀	
大野市PTA連合会	会長	末永公秀	～平成22年4月
大野市PTA連合会	会長	白井善丸	平成22年5月～
社団法人 大野青年会議所	理事長	中村圭吾	～平成22年4月
社団法人 大野青年会議所	理事長	井上智晴	平成22年5月～
大野市社会福祉協議会	会長	椿坂繁雄	
大野市連合ふわわ女性の会	会長	吉田多輝子	※
大野市連合ふわわ女性の会	副会長	松村春美	～平成22年4月
大野市壮年団体連絡協議会	会長	篠原孝康	
大野市地域活動連絡協議会	幹事	高田麻友子	
大野市文化協会	会長	寺島藤雄	
大野市体育協会	会長	福田 隆	
社団法人 大野市観光協会	会長	中村利章	
大野男女共同参画ネットワーク	会長	長谷川佳子	平成22年5月～
公募委員		間宮重基	
公募委員		玉木郁夫	
公募委員		木下英一	
公募委員		小山浩一	

※～平成22年4月 大野男女共同参画ネットワーク 会長



用語解説

第五次大野市総合計画策定幹事会

団体名	役職	氏名(敬称略)	所属部会等
大野商工会議所青年部	会長	田中 博	産業
テラル越前農業協同組合	総務課長	広田利成	産業・長
九頭竜森林組合	参事	長谷川勝美	産業
社団法人 大野青年会議所	直前理事長	中村圭吾	人①・長
大野市社会福祉協議会	事務局長	松田 勉	人②・長
大野市老人クラブ連合会	理事	島田一成	人②
大野市消費者グループ連絡協議会	会長	齊藤博子	副幹事長 自然
大野市連合愛育会	会長	高村重美	人②
教職員	指導主事	竹村和貢	人①
大野青年連絡会	会長	山田美由紀	人①
公募委員		間宮重基	人②
公募委員		玉木郁夫	幹事長 自然・長
公募委員		木下英一	人②
公募委員		小山浩一	行財政・長

長：各部会長、人①：人が元気①部会、人②：人が元気②部会、
産業：産業が元気部会、自然：自然が元気部会、行財政：行財政改革部会



第五次大野市総合計画策定委員会

■ 英字

NPO法人

非営利団体(Non Profit Organization)の略語で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称です。福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力などさまざまな分野で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されています。

■ あ行

アンテナショップ

名古屋圏、大阪圏および東京圏において、大野市の特産品を販売したり、イベント情報を発信したりするお店です。

越前おおの型 食・農業・農村ビジョン

農業分野での「越前おおのブランド」を確立していくため、大野市の食・農業・農村に関する数値目標や振興を図る基本的な施策の方向性について、市が策定した計画です。(平成19年3月策定)

越前おおの型農業

大野の農業・農村全体を「越前おおのブランド」として確立していくため、「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン」で定めた五つの基本方針に基づいた農業のことです。

- 五つの基本方針…環境に調和した農業の推進、農産物の総ブランド化、魅力ある「大野の食」の提供、多様な担い手の確保と育成、快適な農村形成と都市との交流

「越前おおの里の恵み」認証制度

大野市で生産された農林産物のうち、有機JAS認定を取得した農地で栽培された農林産物や福井県特別栽培農産物認証を取得した農林産物を、越前おおの里の恵みとして、一般財団法人越前おおの農林楽舎が認証する制度です。

越前おおのサポーター

市民をはじめ、大野市出身者や住んだことがある方、大野市に縁のある方などで、大野市の応援団として、市に登録された方々のことです。越前おおの魅力を全国にPRしています。

「越前おおの産」産地保証制度

一般財団法人越前おおの農林楽舎が、大野市で生産された農林産物であることを保証する制度です。

越前おおの総ブランド化

「人、歴史、文化、伝統、自然環境、食」など大野が誇る魅力ある素材のすべてを磨き上げ、「越前おおのブランド」として大野市を宣伝し、地域の活性化につなげることです。

越前おおのブランド大使

大野市出身や縁のある、または、縁があり今後活躍が期待できる方を、大野市の広告塔として、市が任命しています。それぞれの活動の中で大野市の知名度アップ、イメージアップにつながる情報発信や、市政に対する提言などを行っています。

越前おおのまるごと道の駅

中部縦貫自動車道の全線供用開始を見据え、パーキングエリアを出発・帰着するなど、大野盆地全域を道の駅と捉え、観光振興を図ることです。

大野市

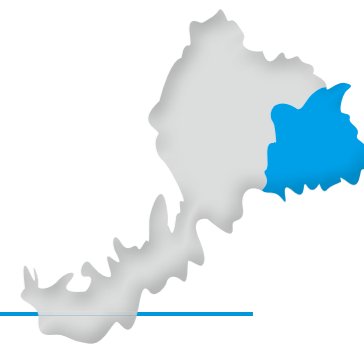
地理的な大野市、範囲としての大野市を指します。

大野市介護保険事業計画

介護保険の保険給付を円滑に実施するために市が策定する計画です。3年を1期とする策定が義務付けられています。(平成21年3月策定)

将来像 ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち





大野市環境マネジメントシステム

環境負荷低減に努めるため、市が平成14年3月から平成20年3月まで認証取得していたISO14001のノウハウを生かして構築した、環境に配慮した事務事業の実施や庁舎管理を行う市独自のシステムです。

大野市景観計画

古くから取り組んできた大野市独自の景観形成に対する考え方を継承し、より発展させるため、景観法に基づいて、市が策定した景観行政の基本的な計画です。(平成19年5月策定)

大野市建築物耐震改修促進計画

住宅と一定規模以上の建築物の耐震診断や耐震改修の促進を図るため、建築物の耐震改修の促進に関する法律に基づいて、市が策定した計画です。(平成20年6月策定)

大野市人権施策推進計画

人権施策を総合的かつ計画的に実施するため市が定めた計画です。(平成20年3月策定)

大野市人材育成基本方針

地方分権の推進や住民ニーズの多様化など、環境の変化に柔軟に対応できる職員の育成を効果的に推進するための総合的な取り組みや方策などについて市が定めた指針です。

大野市男女共同参画プラン

男女共同参画社会実現に向けた取り組みや推進の方針などについて市が定めた計画です。(平成23年度から10年間の計画を策定中)

大野市定員適正化計画

職員の定員管理と適正配置について市が定めた計画です。

大野市バイオマスタウン構想

地域内で発生するバイオマス(生物資源)を地域内の関係者が連携し有効利用することを目指し、市が策定した構想です。(平成20年3月策定)

大野人

「おおのびと」と読み、意味は大野市教育理念の大野人に同じです。

お出かけほっとサロン事業

介護予防や健康づくりを目的として、老人クラブ会員など高齢者を対象に大野市内の四つの温浴施設において行う、入浴、昼食、送迎を含む日帰りの介護予防教室のことです。

■ か行

かかりつけ医

患者の身近な地域にいて、日頃から患者やその家族の体質や病歴、健康状態を把握し、往診などの診療行為のほか、健康管理上のアドバイスなども行う医師のことです。

橋梁長寿命化

今後老朽化する橋の増大に対応するため、従来の事後的な修繕ではなく、予防的な修繕を行い、橋の耐用期間を長くすることで維持補修費用の縮減や平準化を図ることです。

くらしのアドバイザー

消費生活に関する知識と経験の豊富な市民の中から、市が委嘱しています。市民からの消費生活相談に対して助言するとともに、消費者啓発に対する協力や情報収集を行います。

グループウェアシステム

組織内のコンピュータネットワークを活用した、情報共有のためのシステムソフトウェアです。電子メールや電子掲示板、スケジュール管理や電子決裁

など、さまざまな機能がシステムに統合されています。

景観形成市民団体

シバザクラの植栽や景観形成地区の景観づくり活動など、良好な景観形成に貢献しているとして市長に認定された市民団体です。

景観形成地区

大野市の中でも重点的に景観形成を図る必要があるとして市長が指定した地区です。七間通り地区、五番通り地区、寺町通り地区の3地区を指定しています。

公共用水域

水質汚濁防止法によって定められる、公共利用のための水域や水路のことをいいます。河川、湖沼、港湾、沿岸海域、公共溝渠、かんがい用水路、その他公共の用に供される水域や水路があります。ただし、下水道は除きます。

洪水ハザードマップ

洪水が発生した場合の浸水の範囲とその深さや、避難に関する情報を示した地図です。

国際理解教育推進員

大野市独自の制度で、小学校外国語活動の時間に担任教諭とともに授業を行う者でALT(Assistant Language Teacher)ともいいます。併せて、市の国際交流支援も行っています。

克雪市民会議

56豪雪を教訓として設けられた会議で、明るい雪国生活を築くため、毎年11月頃に会議を開催して、市民や行政、関係機関などが協力し、意見を出し合い、到来する降雪期に向けた雪害対策計画を策定します。

■ さ行

災害時要援護者避難支援プラン

災害時に一人で避難することが困難な高齢者や障害者などの災害時要援護者に対し、地域(自主防災組織または自治会)で避難の支援が迅速に行えるよう、平常時から緊急連絡先や避難に配慮すべき内容、支援者などについて、地域が個別に作成する支援計画です。

里川

里山をもじった造語です。古来より飲み水・炊事・洗濯などの生活用水や水田などの農業用水、魚などの食料を得る場として大切にされ、子どもたちにとっては遊び場であるなど、身近な地域の川をいいます。

里地里山

奥山と都市の中間にあって、集落とその周りの森林と農地で構成される地域です。人為による適度な管理により環境が形成維持されてきた雑木林や採草地、農耕地などの身近な自然をいいます。

里山砂防事業

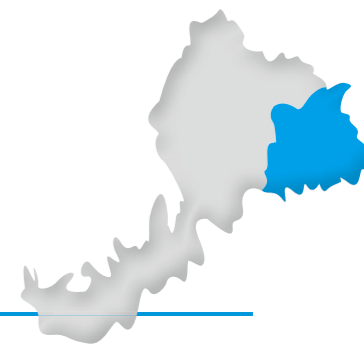
土砂や流木の発生源となる里山の適切な管理を促進することにより、土砂災害の防止や軽減を図るため、従来の砂防施設の整備とともに、流木などの発生源対策のための樹木整備、管理道路整備、山腹保全工事、溪流保全工事などを組み合わせて実施する事業です。

市

行政としての大野市、大野市役所を指します。

自主防災組織

住民が自治会や地域ごとに団結して、まちぐるみで防災活動を行うための集まりです。日頃から災害に備えたさまざまな取り組みを実践するとともに、災害が発生した際には被害を最小限に食い止めるための活動を行います。



市民

地区の住人だけでなく、大野市内に住所のある人を指します。

市民力

市民一人一人が、市民が集まった企業、NPOなどの団体が、自主的かつ自発的に課題の克服に取り組む力です。

事務事業評価システム

事務事業の整理合理化と経費全般の節減合理化を図るため、市が行っているすべての事務事業を緊急性・優先性・効率性などを考慮しつつ市が自ら評価し、その結果により整理を行う取り組みです。

住民

住んでいる人、地区の住人を指します。

循環型社会

有限な資源の持続性を確保するため、大量生産・大量流通・大量消費・大量廃棄の社会のあり方を根本から見直し、人間の生活や企業活動などに伴って発生・消費される物やエネルギーなどあらゆるものを資源として循環し、またはさまざまな形で繰り返し利用するとともに、廃棄するものを最小限とすることで、自然環境をはじめとする環境への負荷を可能な限り低減した社会のことをいいます。

消費生活モニター

消費生活に関心が高い市民の中から、市が委嘱しています。市民と行政とのパイプ役として、不当表示や悪質訪問販売の通報・監視を行うとともに消費者行政に対する意見や要望を提出します。

消防水利

消火活動を行う際の水利施設であり、市町村が消防の目的で設置し、維持管理する消火栓、防火水槽などを指します。

消防団協力事業所表示制度

消防団活動に協力している事業所に対して表示証を交付することにより、協力事業所が地域への社会貢献を果たしていることを社会的に評価する制度です。

進取の気象

大野市の市民性を表す言葉です。意味は大野市民憲章の進取の気象に同じです。

○大野市民憲章より…幕末の大野丸に象徴される進取の気象

スケールメリット

広域化によって組織規模が大きくなることで得られる利点のことです。

スローライフ

都会から離れて、自然の中でゆっくりと、思い思いの生活の仕方で暮らすことです。

生活・介護支援サポーター

福祉制度やコミュニケーションの取り方などを学ぶ養成研修の修了者を、介護支援サポーターと呼んでいます。高齢者や障害者などの生活を地域で支える支援員です。

総合型地域スポーツクラブ

人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、(1)多世代(2)多種目(3)多志向という特徴を持ち、地域住民により自主的かつ主体的に運営されるスポーツクラブをいいます。

■ た行

第六次大野市行政改革大綱

効果的で効率的な行財政運営を推進するために、組織や機能などを改革するための方向性について市が定めた大綱です。(平成22年3月策定)

淡水型イトヨ

イトヨはトゲウオ科の魚で、河川や池など淡水域で一生活す淡水型と、河川と海を行き来する遡河型という二つのタイプがいます。大野市には淡水型イトヨが生息しています。

地域

ある一定の範囲を指します。区、地区、市、奥越地域など範囲は文脈に応じて変化します。

地域医療

包括医療(保健予防、疾病治療、後療法および更生医療)を、関係機関が連携して、住民が安心して地域で生活ができるよう提供することです。

地域コミュニティ

地域住民が生活している場所で、日常の触れ合いや共同活動などを通して、住民相互の交流が行われている地域社会のことです。

地域主権

地域のことは地域に住む住民が責任を持って決めることのできる活気に満ちた地域社会をつくっていくことをいいます。

○地域主権戦略大綱(平成22年6月22日閣議決定)より…「地域主権改革」とは、「日本国憲法の理念の下に、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ総合的に広く担うようにするとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことができるようになるための改革」である。

地域福祉

自分の努力だけでは自立した生活を送ることが困難な課題があるときに、住民の手による自主的な活動や行政などの公的サービスを活用しながら課題の解決へと結びつける活動です。その活動は、課題の発生を予防するための活動であると同時に、個人が人としての尊厳を持って家庭や地域の中でその人ら

しい自立した生活を送れるように支えるものです。

地域力

住民が力を合わせ、地域全体で出す力です。住民が自ら地域の課題を掘り下げ、その解決に向けて主体的に学習・実践活動に結び付けていく地域の底力です。

地産地消

地域で生産された食材をその地域で消費することです。

超高速ブロードバンド

超高速・大容量通信を可能にするインターネット回線のことです。上り(利用者からインターネットに向けたデータ送信速度)、下り(インターネットから利用者に向けたデータ送信速度)ともに、30Mbps級以上の回線が超高速ブロードバンドといわれています。例えば、光ファイバー通信網があります。

低炭素社会

革新的な技術開発、産業構造や社会システムおよび生活様式の変革などにより、温室効果ガスの排出量の削減や吸収作用の強化などが行われ、持続的な発展が可能となる社会のことをいいます。

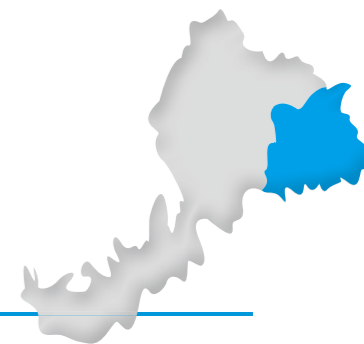
■ な行

二次的自然

人が手を加えることで維持されてきた自然環境のことです。里地里山を構成する水田やため池、雑木林、採草地や放牧地などの草原などがこれに当たります。

認定農業者

自らの農業経営を計画的に改善するための農業経営改善計画を作成し、市から当該改善計画の認定を受けた農業者のことです。



農業生産法人

農地を利用して農業経営を行う法人のことで、農事組合法人や合名会社、合資会社、合同会社、株式会社(株式譲渡制限会社に限る)の5形態があります。

農商工連携

農林漁業者と商工業者がお互いの技術やノウハウを持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などに取り組むことです。

農村集落カルテ

農村集落の現状や課題を把握するため、アンケート調査や聞き取り調査を行い、年齢別人口、農家数、農地の利用状況などを集落ごとに市が取りまとめた記録です。

■ は 行

バイオディーゼル

バイオディーゼルフューエルの略で、生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称であり、バイオマスエネルギーの一つです。

てんぷら油などの廃食用油を回収し、それからバイオディーゼル用燃料を製造することでディーゼルエンジンに使用することができます。

パブリックコメント制度

市民の意見を重要な計画や政策の立案に反映させる一連の手続きをいいます。

市の基本的な政策や計画などの策定に当たり、その趣旨や目的、案の内容など必要な事項を市民に公表し、意見を募集します。市は提出された意見を参考に意思決定を行った後、意見と意見に対する市の考え方などを公表します。

病診連携

地域医療において、核となる病院と地域の診療所などが行う医療連携のことです。

フロアマネージャー

総合案内のように来訪者が質問に来るのを待つのではなく、来訪者に声を掛け、来訪目的を把握して、適切な窓口へ誘導したり、各課との連絡調整を行ったりする役目の人をいいます。

平成大野屋支店主と番頭

応募のあった全国の大野姓の方に、市が平成大野屋支店主として委嘱しています。大野市の情報発信と全国規模での継続的な交流を進めています。

まちづくりや平成大野屋事業に関心のある市民に、市が平成大野屋番頭として委嘱しています。全国の支店主との交流事業やまちを活性化するためのイベントの企画・実施、大野市の情報発信を行っています。

平成大野屋事業の名前は、江戸時代末期の大野藩の藩政改革の一つで、北海道や大阪など全国37カ所に煙草や生糸など藩の特産品を販売するチェーン店「大野屋」を開店し、80年にかかるといわれた藩の借金を約20年で返済したという史実に着目して付けられました。

ポータルサイト

インターネット上で、最初に接続した際に表示されるサイトで、さまざまなサイトへの入り口となっているサイトのことです。

■ ま 行

真名川水辺の楽校

「ふるさとの川、真名川の魅力ある水辺の復元」を目的として、下流域の南新在家・土布子地系の河川敷に、自然体験や学習ができる場として整備した施設です。

ミスマッチ

事業所が求人する職種と求職者が求職する職種の釣り合いが取れていない状態をいいます。

みんなでスポーツ

市が生涯スポーツの振興を図るため、大野市内の体育施設や公民館などにおいて行っている誰もが気軽に参加できるスポーツ教室のことです。

メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満(内臓肥満・腹部肥満)に高血糖・高血圧・脂質異常のうち二つ以上を併発した状態のことです。

■ や 行

ユニバーサルデザイン

「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインすることです。

幼保一体化

幼稚園と保育園が同一敷地内にあり、現行法制度の下で、職員の連携や幼児の交流、施設の相互活用などにより、幼児の教育、保育を進めていくことをいいます。

■ ら 行

ライフステージ

人が生まれてから死ぬまでの、一般的に乳児期・幼児期・児童期・思春期・成人期・壮年期・老年期などに区切ったそれぞれの段階のことです。

ラッピング列車

デザインを印刷したフィルムを車体全体もしくは一部に貼り付けした鉄道車両をいいます。越美北線は車両5両うち3両の車体全体に、沿線の自然や観光スポットがデザインされ、平成22年から約4年間運行します。

■ わ 行

ワンストップサービス

市役所などの窓口において総合窓口を設け、さまざまな行政サービスをそこで受けられることをいいます。大野市保健・医療・福祉サービス拠点施設において、配置される市の担当部署や関係団体などが連携し、一体となった複合的サービスを提供することを目指しています。

ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち

第五次大野市総合計画

発行：平成23年2月

編集：大野市秘書政策局総合政策課行政戦略室

〒912-8666 福井県大野市天神町1番1号

Phone 0779-66-1111 Fax 0779-65-8371

ホームページ <http://www.city.ono.fukui.jp/>

E-mail senryaku@city.fukui-ono.lg.jp